

弥生時代の大型土坑

—東海地域を中心として—

● 蔭山 誠一

弥生時代の尾張地域の遺跡においてよくみられる大型土坑について、形態や埋土の特徴から、その機能の主体を生活道具類の廃棄と考え、遺跡中では居住域に多く、墓域に少ないことを明らかにした。さらに阿弥陀寺遺跡の事例から大型土坑が竪穴住居の周囲 10m 程の範囲に掘られ、被熱痕跡がある埋土の土坑が竪穴住居群の間の空閑地に多いことを推定した。また東海地域の弥生時代～古墳時代前期前半にかけての遺跡にみられる大型土坑についても分析し、尾張地域における占地と同様な特徴を確認した。東海地域では沖積微高地に立地する遺跡において多くの大型土坑が掘られ、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の遺跡に少ない傾向を指摘した。

1 はじめに

尾張地域における弥生時代の集落遺跡を発掘調査すると、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、方形集溝墓、環濠、土坑、溝など様々な形態をした遺構が検出できる。筆者は、近年当センターにおける発掘調査に携わる中で、比較的土器など遺物が多く出土し、阿弥陀寺遺跡の報告などにおいて焼土や炭、灰層を堆積する土坑として分析された大型土坑について、当地域の弥生時代集落を考える資料にならないだろうかという認識を抱いていた。

今回分析するような大型土坑は、1967 年に石野博信氏により弥生時代における貯蔵のための施設としてとりあげられた「貯蔵施設の三形態」である「屋内小土坑」、「屋外土坑」、「高床倉庫」の「屋外土坑」の一部に当たり、弥生時代の貯蔵施設について「中期以降の三者の実態を要約すれば、住居に接していくつかの屋外土坑が付設され、住居内には小土坑が、離れて集落の一面には高床倉庫が建てられるという形態をとる」としてまとめられた「屋外土坑」の恐らく大部分に当たるものと思われる。石野氏が当時全国で蓄積された弥生時代集落の調査事例を網羅して分析された労作であり、各地の屋外土坑についてその機能等にも追求された研究で

ある（石野 1967）。今回の分析は貯蔵施設としての大型土坑ではないが、大型土坑の占地の結論は石野氏の屋外土坑の実態とされたものと同じものを想定しているものと考えられる。同様に弥生時代前半期の北部九州地域を中心に分布する袋状竪穴についても、弥生時代の貯蔵施設として武末純一氏が竪穴住居との関係から高床倉庫と推定される掘立柱建物との集落内における位置関係から分析を試みられている（武末 1991）。また弥生時代の北部九州地域に展開する墓域内にある「墓域縁土坑」について、多くの土器類が出土する類例から墓前における祭祀に関する分析がある（川上 1995）。

以上から考えると弥生時代の遺跡において、様々な形態をとり、広く展開する遺構として認識できる可能性が高いように思われる。そのために弥生時代における遺跡の分析・研究の中では、集落の広がりや変遷を考えるための材料にはなってきたが、個別の研究素材としてはあまりとりあげられてこなかったものといえるだろう。

よって本論では、弥生時代の東海地域における集落遺跡において、大型土坑がどのように展開するのか、立地との関係、時期的変遷、遺跡内における占地の特徴について検討したい。尚、本論では土坑の平面における長径が 1.0m 以上のものを主体に分析し、また長径 0.5m 以

上 1.0m 未満のものを中型土坑としてとりあげ
る（溝状の遺構は除く）。

2 大型土坑の特徴

まず、大型土坑の特徴について弥生時代の発
掘資料が多く、遺跡立地等条件が均質な尾張地
域における遺跡調査の事例をもとに考えたい
（表 1）。

（1）大型土坑の形態分類とその傾向

大型土坑の規模は、大きいもので長径が
10m を超し、短径においても 3m を超すもの
があるが、全体的には短径が 1 m 前後であり、
竪穴住居より小さい。遺構の深度は規模により
様々であるが、30cm ～ 50cm 前後のものが多い
ように思われ、全体的には竪穴住居よりは深い
遺構として検出される場合が多い。

形態に関しては、一色青海遺跡において平面
の形態分類を、阿弥陀寺遺跡において埋土の分
類がされている。この結果からは、土坑の使わ
れ方には焼土と灰層・炭層が互層になるものや
炭層が顕著にみられるもの、多量の土器が出土
するもの、それらがあまりみられないものが存
在することから、機能の違いを推定できるが、
土坑の平面や断面形態との対応関係はあまり認
められていない。また焼土と灰層・炭層のラミ
ナ堆積が顕著に認められる土坑は、土坑内にお
ける火の利用も考えられるが、土坑内の壁面が
被熱しているものはない。阿弥陀寺遺跡の報告
に指摘があるように、集落遺跡の土坑の埋土は
違いがあり分類は可能ではあるが、ほとんどの
土坑に炭化物は含まれ、多くは程度の差とも考
えられる。

よって当地域にみられる弥生時代の大型土坑
の大部分は、井戸や土坑墓を除くと形態と埋土
などの特徴から廃棄を主体とした性格のものとい
える。

（2）遺跡内における占地

今回対象にしている大型土坑の遺跡内におけ
る分布について考える。

居住域に分布する土坑

遺跡の居住域に展開する土坑の存在について

は、土坑自体が竪穴住居や掘立柱建物と同様、
遺跡における居住域を構成する要素と考えられ
て分析されることもあるので、ほとんどの遺跡
の居住域内にみられる。しかし、遺構の検出状
況において重複が認められる大型土坑と竪穴住
居・掘立柱建物等の建物遺構は、検出状況から
は同時存在があり得ないものと考えられ、建物
遺構との占地の関係の変化がみられるものとい
える。

実際に竪穴住居と掘立柱建物が検出され、大
型土坑が 10 基以上見つかった遺跡には、
弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期
中葉後半・中期後葉・後期・古墳時代前期の朝
日遺跡、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺
跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の志賀公園遺
跡、猫島遺跡、弥生時代中期中葉～中期後葉の
阿弥陀寺遺跡、大淵遺跡、一色青海遺跡、勝川
遺跡苗田地区、弥生時代後期末～古墳時代前期
前半の廻間遺跡がある。厳密な時期分類がで
きていない朝日遺跡を除くと、ほぼ同一時期に
において多数の竪穴住居が検出されている猫島遺
跡、阿弥陀寺遺跡、大淵遺跡、一色青海遺跡で
は竪穴住居と大型土坑の重複関係が比較的多
くみられ、阿弥陀寺遺跡竪穴住居 SB28、猫島
遺跡 00Aa 区竪穴住居 SB07 等のように 1 棟の
竪穴住居に数基重複・隣接して分布するものがある。
一方当然であるが、建物遺構の検出数が
少ない遺跡では異なる時期と考えられる建物遺
構とは重複がみられるが、ほぼ同一時期におい
ては建物遺構と重複する大型土坑は比較的少な
く、大型土坑は建物遺構の周囲 10m 程の範囲
に分布する。ただし、猫島遺跡、阿弥陀寺遺跡、
大淵遺跡、一色青海遺跡においても、ほぼ同一
時期に分類される建物遺構との関係では、重複
する大型土坑より、建物遺構の周囲に分布し重
複しない大型土坑の方が多い。

以上の分析からは、大型土坑は竪穴住居等の
建物遺構と重複する立地条件において遺跡内に
占地し、遺構の検出状況から考えれば、竪穴住
居等建物遺構が検出されない（検出できていな
い）部分（建物遺構の周囲の部分）からも検出
される（検出できる）遺構の形態的条件をもつ
と同時に、相対的には竪穴住居等建物遺構の周
囲（周囲 10m 程の範囲）に占地する条件を持

つものと考えられる。弥生時代中期後葉以後に多く検出される井戸は、朝日遺跡、一色青海遺跡、八王子遺跡、阿弥陀寺遺跡のように旧河道の際や谷状の窪地等、居住域の縁辺にみられ、建物遺構の周囲 10m の範囲より遠くに分布する傾向がある。また弥生時代中期の猫島遺跡、大淵遺跡、一色青海遺跡、阿弥陀寺遺跡のように堅穴住居とほぼ同数程度（それ以上の場合もある）、検出される状況がある。

墓域に分布する土坑

ここでは方形周溝墓・墳丘墓が分布する範囲を墓域と考え、その範囲内に分布する大型土坑を取り上げる。ほぼ同一時期において方形周溝墓・墳丘墓内およびその周辺に分布する大型土坑が検出されているのは、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代中期後葉の阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡、弥生時代中期前葉～古墳時代前期の朝日遺跡等がある。また土坑墓と考えられるものもある。この中で、明確に大型土坑と方形周溝墓・墳丘墓と重複関係が認められるのは、三ツ井遺跡、猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡があり、弥生時代中期の志賀公園遺跡の一部、弥生時代後期の山中遺跡、朝日遺跡の一部のように方形周溝墓・墳丘墓内にある埋葬主体部に関する土坑と土器棺に伴う土坑と考えられるものもあるが、ほぼ同一時期か近い時期において墓域と居住域が隣接する猫島遺跡、志賀公園遺跡、廻間遺跡等では、大型土坑が方形周溝墓・墳丘墓の周溝と重複している場合もあり、土坑の性格が必ずしも墓域に関連するものではない可能性がある。西上免遺跡の墳丘墓では大型土坑と墳丘墓に重複関係が認められるが、報告されているように墳丘墓に関連する祭祀等に伴う土坑の可能性もある。また阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡では大型土坑（ここでは井戸も含む）との重複はなく、井戸等が埋没しないまま居住域から墓域に変遷する状況を示している可能性が高い。弥生時代前期頃の三ツ井遺跡では方形周溝墓と報告される方形状に廻る溝があり、堅穴住

居の周溝とも考えられるが、時期分類が不明であるので、居住域から墓域への変遷する状況を示しているものと考えておきたい。

以上の分析からは、方形周溝墓・墳丘墓の埋葬主体部に関する土坑、土器棺に伴う土坑を除くと墓域に伴う大型土坑は少ないといえる。

(3) 大型土坑の占地からみた遺跡の復元

ここでは発掘調査報告において土坑埋土の分類が行われ、居住域が広く調査されている阿弥陀寺遺跡における弥生時代中期中葉前半の遺構配置について分析したい。阿弥陀寺遺跡のⅠ期とされる堅穴住居、掘立柱建物、大型・中型土坑、溝等の遺構を示したのが図 1 で、北東から南西にのびる尾根状微高地上全体に遺構が形成されていることがわかる。この中で、堅穴住居が地形の傾斜に沿って北東から南西に分布する 4 群に分かれることがわかる。大型・中型土坑は一部堅穴住居と重複するものがあるが、大きくは堅穴住居の周辺に分布することが分かる。興味深いことに、土坑の埋土 A 類と分層された単一層からなり分層できない土坑は堅穴住居周辺に混在して分布するものが多く、埋土 C 類と分類された焼土と灰層・炭層が互層になるものや炭層が顕著にみられる大型・中型土坑は北 1 堅穴住居群と北 2 堅穴住居群の間の地点や北 2 堅穴住居群と南 1 堅穴住居群の間の地点、南 1 堅穴住居群と南 2 堅穴住居群の間になる地点を中心にやや集まって分布する傾向が見られ、埋土の状況が異なる二者がやや異なった地点に分布する。この状況から考えると、弥生時代中期中葉前半の阿弥陀寺遺跡の人々は、堅穴住居・掘立柱建物等建物遺構の周囲に大型土坑を掘り、さらに隣の堅穴住居群との境界部分（堅穴住居の周囲 10m 程のところ）に掘った大型土坑の中に焼土・灰層・炭層が埋まっていく（埋めた？）行為が行われた指向性が認められるのである。また大型土坑の中でも土器等の遺物が比較的顕著にみられるのは堅穴住居の近在のものであり、住居から離れるにつれて土器等の廃棄が少なくなる傾向がある様に思われる。

同様な状況は弥生時代中期後葉の一色青海遺跡 95Ca 区・95Cb 区・96A 区にもみられる。また、弥生時代中期中葉～後葉の西上免遺跡に

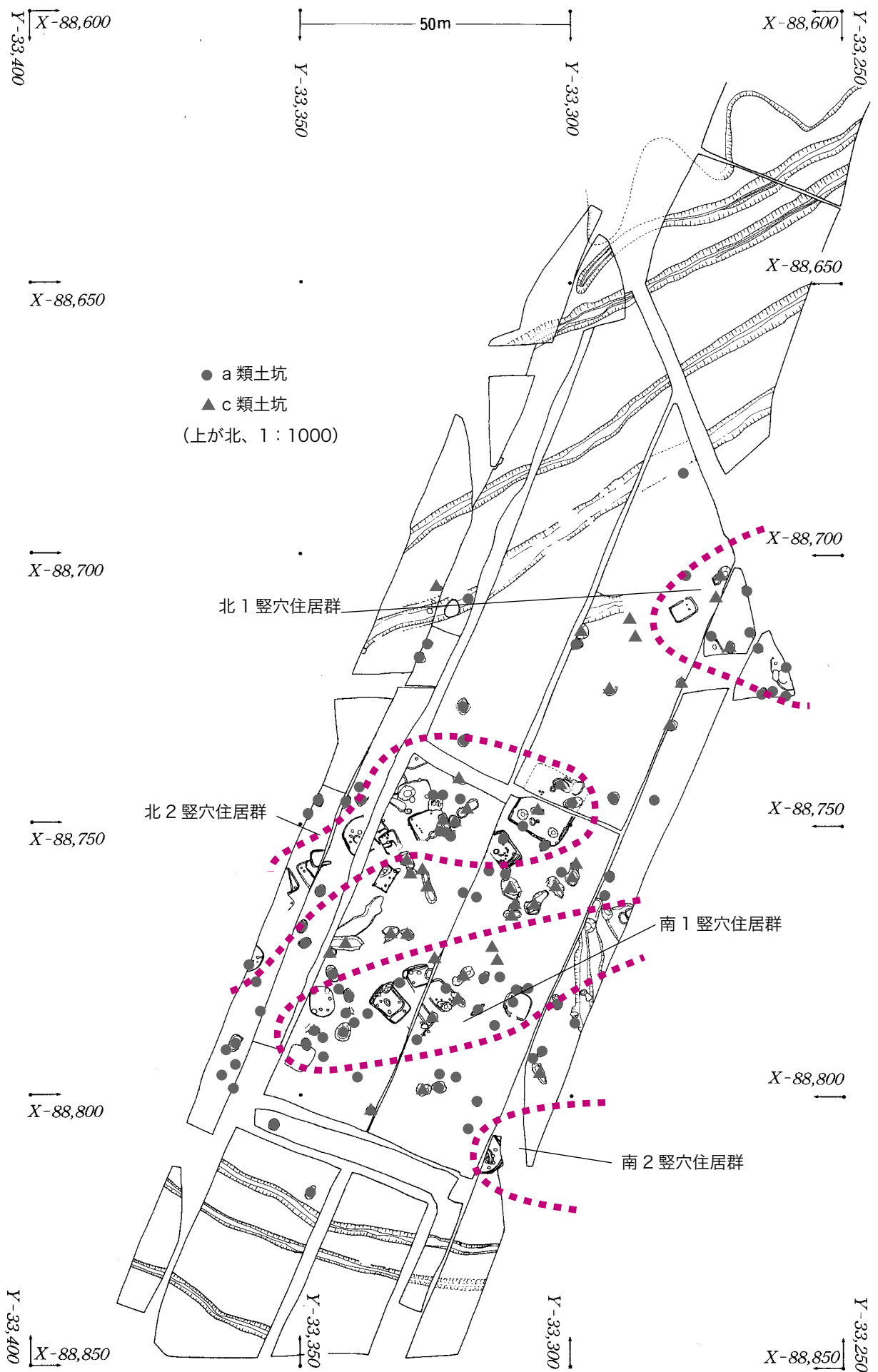


図1 阿弥陀寺遺跡の大型土坑 (弥生時代中期中葉前半)

において指摘されているように、地点により分布する土坑の特徴が異なる状況も同様な傾向を示しているのかもしれない。

3 東海地域における大型土坑の展開

それでは先に触れたような状況が、異なる条件（立地、地域等）の遺跡においてもみられるであろうか。弥生時代における東海地域の大型土坑の有無を検討したのが表1である。

(1) 遺跡立地と時期的変遷

沖積微高地（氾濫原地帯、谷底平野、扇状地縁辺沖積微高地を含む）に立地する遺跡で大型土坑が10基以上検出されている遺跡は、愛知県では弥生時代前期の月縄手遺跡・山中遺跡・三ツ井遺跡、弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期中葉後半・後葉・後期の朝日遺跡、弥生時代中期中葉後半・後期・古墳時代前期初頭の八王子遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の志賀公園遺跡・猫島遺跡、弥生時代中期前葉～中期後葉の西上免遺跡、弥生時代中期中葉前半・中葉後半・中期後葉・後期の阿弥陀寺遺跡、弥生時代中期後葉の大淵遺跡・一色青海遺跡・勝川遺跡苗田地区、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の山中遺跡、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の廻間遺跡がある。三重県では弥生時代前期の村竹コノ遺跡、弥生時代中期前葉の蔵田遺跡、弥生時代中期後半の下川原遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代前期の愛知県松河戸遺跡、弥生時代中期の三重県納所遺跡がある。

洪積台地（丘陵、河岸段丘を含む）の遺跡では愛知県では弥生時代後期～古墳時代前期初頭の見晴台遺跡、三重県では、弥生時代中期前葉～中葉の東庄内B遺跡、弥生時代中期中葉前半の和遅野遺跡、弥生時代中期（中葉主体）の片野遺跡、弥生時代中期後葉の菟上遺跡・永井遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡・小谷赤坂遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代中期中葉前半の三重県古里遺跡がある。

以上の弥生時代前期から古墳時代前期初頭の

遺跡において、大型土坑の多くつくられる遺跡は沖積微高地に立地する遺跡に多く、洪積台地に立地する遺跡は少ない傾向がある。大型土坑の時間的変遷では、弥生時代前期には既に多く掘られており、以後弥生時代中期後葉の遺跡で多数検出されている。弥生時代後期～古墳時代初頭においては、先に分析した墓域に関連する山中遺跡、西上免遺跡、居住域に関連する廻間遺跡、朝日遺跡、八王子遺跡等、尾張地域の沖積地において比較的多数の大型土坑がみられるが、他の地域においては堅穴住居等の遺構のあり方から考えると大型土坑が少ない傾向がある。ただし、三重県辻子遺跡のように沖積地の遺跡や洪積台地に立地する弥生時代後期の環濠集落である小谷赤坂遺跡では比較的多くの大型土坑がみられ、異なる状況がある点は留意される。

(2) 洪積台地上の弥生時代遺跡にみられる大型土坑

前節において、東海地域における弥生時代の大型土坑について、洪積台地上に立地する遺跡に少ない傾向を指摘した。この傾向は大きくは変わらないと思われるが、洪積台地上の遺跡においても沖積微高地に立地する遺跡と同様に大型土坑が掘られることは重要である。

大型土坑の遺跡内における占地を検討すると、堅穴住居や掘立柱建物等の建物遺構と重複関係があるものは、弥生時代中期後葉の愛知県橋良遺跡において2基、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の見晴台遺跡で数基、南山畑遺跡で1基、三重県では、弥生時代中期前葉～中葉の東庄内B遺跡で2基（1棟の堅穴住居に）、弥生時代中期後葉の菟上遺跡において5基（1m内外に隣接するものが8基）、弥生時代後期小谷赤坂遺跡において2基、古墳時代前期後半の三重県新畑遺跡において3基（堅穴住居2棟に）あるだけで、大型土坑は建物遺構の周囲に分布し、重複する例がある遺跡は比較的多数の堅穴住居が検出されている遺跡に限られる。また墓域との関連でも弥生時代中期（中葉主体）の片野遺跡において、時期は不明であるが方形周溝墓と重複する関係にある大型土坑の例があ

るのみで、先に触れた尾張地域の大型土坑の占地の傾向がより明瞭に確認できる。

形態的特徴を細かく分析できていないが、楕円形から隅丸長方形の平面形態で断面丸底状の様々な形態をしており、規模も尾張地域の状況と類似するように思われる。

(3) 縄文時代晩期の遺跡にある大型土坑

弥生時代前期の東海地域において、すでに今回分析したような大型土坑が存在することは明らかで、縄文時代晩期にさかのぼって存在する可能性も高い。縄文時代後期～晩期の岐阜県西田遺跡や愛知県三斗目遺跡、縄文時代晩期の三重県蛇亀橋遺跡では、今回の大型土坑に分類できる土坑が竪穴住居周辺に分布する傾向がみられる。一方、愛知県牛牧遺跡では竪穴住居の周辺に土坑墓とされる大型土坑が多数みられ、愛知県麻生田大橋遺跡では土器棺墓の分布と径1.0m 前後の平面円形状、断面やや袋状の形態が復元できる土坑が並行する時期に存在する状況が見られる。また三重県森添遺跡においては大型土坑が住居跡、配石遺構、焼土面などとともに多数あり、時期的変遷の多様さと同時に重複関係も多数みられる。

東海地域における縄文時代晩期の遺跡では、大型土坑が平面楕円形状断面丸底状のものと平面円形状断面袋状のものに大きく分類でき、前者は土坑墓と分類されるものが多く、居住域の内部から近在に分布する可能性がある。

4 まとめ

以上の分析において、東海地域弥生時代の遺跡における大型土坑の主に占地の状況について分析したが、遺跡の居住域内部において竪穴住居等建物遺構と分布するものの、竪穴住居との重複は少ないことは明らかで、竪穴住居を始めとする建物遺構が存在する地点が人間活動の拠点とするならば、大型土坑が分布する地点はその縁辺といえる。ここではさらに主に居住域に分布する大型土坑の特徴について、大型土坑の占地から朝日遺跡と菟上遺跡を分析し、その補足をしてまとめとしたい。

(1) 大型土坑のない地点

朝日遺跡の南居住域において基盤砂層上に弥生時代の遺物包含層を堆積しない黒色土の堆積が確認される地点が数カ所ある。これらの部分は弥生時代の朝日遺跡において遺構の掘削が地中深くに及ばなかった地点であり、掘削されなかった可能性が高い場所である。既に指摘されているように遺跡南居住域を縦断する大溝等の土手状の遺構（堆積）が存在した可能性のために遺構が形成されなかった可能性もあるが、その他にもこのような地点が散在することから考えると、今回詳細な分析はできないが弥生時代の一定期間窪地であった可能性が高い地点と考えられる。したがって朝日遺跡の南居住域内の場合、竪穴住居を始めとする土坑（大型土坑から小柱穴まで）・溝などがどのような状態で変遷していったか細かな変遷をたどることは困難であるが、大型土坑が環濠に囲まれた居住域の内部においても、窪地状になる地点には分布せず、窪地の周辺に分布する状況がみられる。この状況は性質の異なる可能性があるが、弥生時代遺跡の集落外側の窪地・谷・後背湿地において大型土坑が分布しない状況と類似する。

また集落域が比較的広範囲に調査された弥生時代中期後葉の菟上遺跡においては、居住域の状況が復元されており、大型掘立柱建物が検出された地点においてはあまり大型土坑が分布せず、反対に幅20m程の谷であるST802の延長上にあたる窪地状になる地点にまとまった数の大型土坑が検出されており、周囲の丘陵微高地状に立地する竪穴住居群から周囲10m程の中に入る。一定の継続期間をもつ遺跡であり、細かな遺構変遷は不明であるが、報告書の分析においては、建物の規模・形態、出土遺物の分布も鑑み、大型竪穴住居と大型掘立柱建物を中心とする区域を「集落中枢部」と位置付け、谷ST802を囲む丘陵微高地の竪穴住居群を含む区域を「一般成員居住区・工房区」として役割分担が存在したことを指摘されている。先に述べた竪穴住居が形成される空間に大型土坑が少ない傾向のより明確に区分された状態を菟上遺跡の大型竪穴住居と大型掘立柱建物が存在する周囲の地点において形成されていたものと考え

られる。

(2) 集落研究のための評価

以上の分析から導き出された大型土坑の占地のあり方を模式的にあらわしたのが図2である。居住域内部において竪穴住居の周囲10m程の範囲を中心に掘られ、隣接する竪穴住居群との中程に火の痕跡のある堆積物が埋まる行為が行われた。そして住居の周囲20mの範囲でほとんどが掘られ、周縁やその外縁の大型土坑として掘られるものとして井戸や墓域の周縁にある土坑墓がある。このような状況が認められるならば、尾張地域の沖積微高地にみられる大型土坑が竪穴住居等と重複する地点が多い遺跡

は、居住域における地点（役割の違う場所）の変換が行われた痕跡を残すものと考えられ、細かな遺跡変遷が究明できるならばより多様な遺構変遷が存在した可能性が高いものと考えられる。またこのような状況が沖積微高地に立地する尾張地域の弥生時代における集落構造の特徴ともいえないであろうか。一方で、洪積台地に立地する弥生時代の集落において、大型土坑が掘られない理由（単にゴミとなった遺物を集落外に持ち出すのか等）についても考えていく必要があるように思われる。今後の課題としたい。

本論を作成するにあたり、木野本和之氏・川北秀実・水野多栄氏のご教授、ご協力を得た。記して感謝の意としたい。

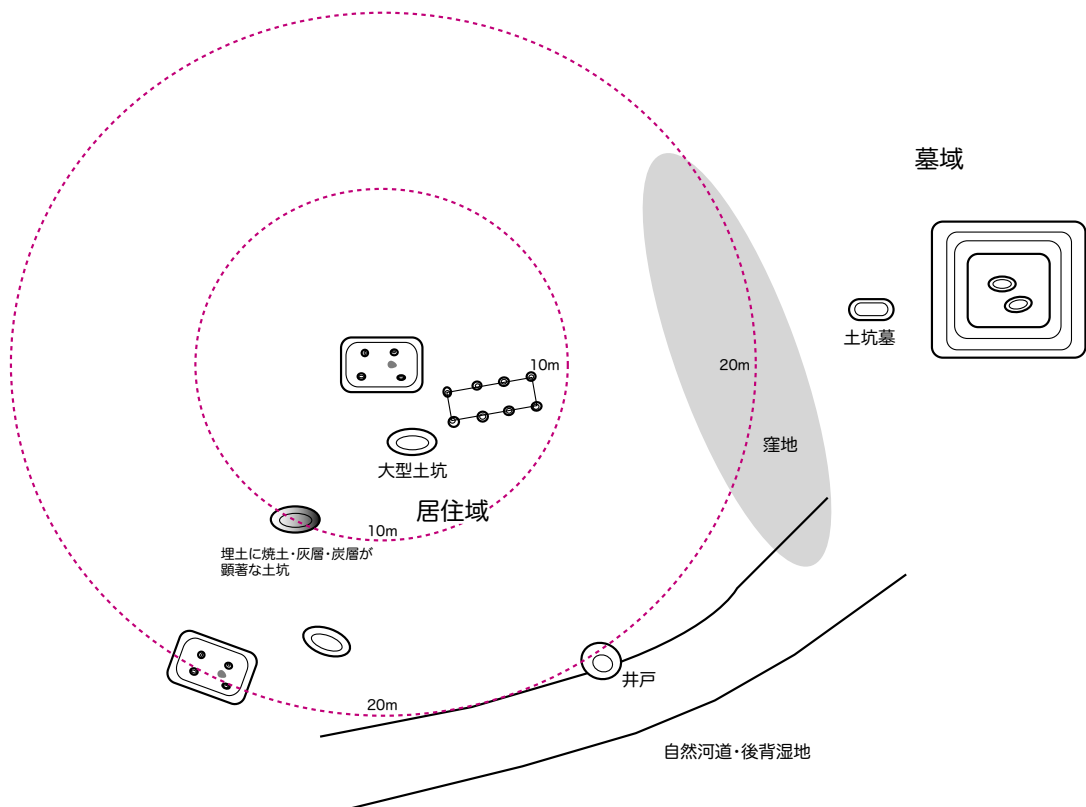


図2 弥生時代における大型土坑の占地

参考文献

本論では、報告書による遺跡事例の分析についての研究を取り上げていない。今後他地域における各遺跡の分析事例を検討していく必要があるものと思われる。尚、今回取り上げた報告書の引用文献は各遺跡の遺構データとともに表1において記述した。

石野博信 1967 「貯蔵施設の貯蔵施設」『関西大学考古学研究年報Ⅰ』。

武末純一 1991 「倉庫の管理主体—北九州の弥生拠点集落例から—」『古文化論叢』児嶋隆人先生喜寿記念事業会。

川上洋一 1995 「弥生時代の墓地における土器出土状況の分析—北部九州と吉備を中心にして—」『考古学研究』第42巻第2号、考古学研究会。

表 1 東海地域における弥生時代の大形土坑

県名	市町村名	遺跡名	土地	調査面積 (1)	時期	竪穴住居等	大形土坑	中形土坑	文獻
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	12100	縄文時代後期	0棟（報告なし）	1	4	田中伸明・見沼剛編『三ツ井遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	津田市	三目遺跡	沖積微高地	約1300	縄文時代後期～晩期	竪穴住居1棟、炉5基、集積・配石遺物2基	約30		糸谷昭彦編1993『三目遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第47集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市中区	牛久保遺跡	沖積微高地	1250	縄文時代後期～晩期	竪穴住居1棟、土器竹器43基	35基		川本和徳編2001『牛久保遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第95集』財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター
岐阜県	丹波川村	西山遺跡	沖積微高地	約3800	縄文時代後期～晩期	竪穴住居20棟（平式式含む）	58	多数	山口和久編1997『西山遺跡』『岐阜県文化財保護センター調査報告書第23集』岐阜県土木部・財団法人岐阜県文化財保護センター
愛知県	名古屋市中区	見沼台地縁辺	低地地区		縄文時代晩期		3		伊藤孝史・野口孝子1993『見沼台地縁辺発掘調査報告書―遺構編―』名古屋市長官舎考古資料館
三重県	桑名市	森宗遺跡	河岸段丘中位面	約2000	縄文時代晩期	竪穴住居15棟	21	5	桑名孝次・柳村清治1988『森宗遺跡発掘調査報告』『桑名市埋蔵文化財センター調査報告書第12集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	津市	蛇巻遺跡A地区	低丘段丘谷内微高地	384	縄文時代晩期後半	竪穴住居2棟	1		新田晋1981『一志郡津市蛇巻遺跡』『昭和65年度埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会
三重県	津市	蛇巻遺跡B地区	低丘段丘谷内微高地	300	縄文時代晩期後半				新田晋1981『一志郡津市蛇巻遺跡』『昭和65年度埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	2100	縄文時代晩期末（～弥生時代初期）	0棟	2以上（報告なし）		田中伸明・見沼剛編『三ツ井遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	津川市	麻生田大塚遺跡	沖積微高地	約9600	縄文時代晩期後半～弥生時代初期	竪穴住居1棟、土器竹器234基	32基以上		『安井俊樹編1991『麻生田大塚遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第21集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター、前田清彦編1993『麻生田大塚遺跡発掘調査報告書』豊川市教育委員会
愛知県	名古屋市中区	月橋手遺跡	沖積微高地	185	弥生時代前期	0棟	12	1	松田昭一・宮田健司他1990『月橋手遺跡・麻生町遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第12集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市中区	月橋手遺跡II	沖積微高地	320	弥生時代前期	0棟	25	10	橋上昇編1994『麻生町遺跡II・月橋手遺跡II』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第55集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代前期	竪穴住居3棟、区画溝、方形周溝溝	12	54	橋上昇編2001『八王子遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	野口北出遺跡	沖積微高地	1274	弥生時代前期	竪穴住居1棟	4以上	0	北條敬示2000『野口・北出遺跡発掘調査報告書』稲沢市福祉保健部・稲沢市内遺跡発掘調査委員会
三重県	松阪市	豊玉遺跡	河岸段丘	約1000	弥生時代前期	竪穴住居1棟	0	1	下村登良男編1981『豊玉遺跡発掘調査報告書』『松阪市文化財調査報告5～3』松阪市教育委員会
三重県	松阪市	上小糸赤坂遺跡(第8次)	段丘上	2460	弥生時代前期	平式式住居2棟?	6	0	伊藤孝史・野口孝子1991『上小糸赤坂遺跡発掘調査報告書』『松阪市文化財調査報告5～21』松阪市教育委員会
三重県	松阪市	小糸赤坂遺跡(第6次・7次)	段丘上	3100	弥生時代前期	0棟	3	2	伊藤孝史・野口孝子2005『天谷寺丘内遺跡群発掘調査報告書』『三重県埋蔵文化財調査報告269』三重県埋蔵文化財センター
三重県	四日市市	大谷遺跡	沖積微高地	約2700	弥生時代前期	竪穴住居2棟、掘立柱建物1か、ヒコト棟あり	3	1	伊藤孝史・野口孝子2008『天谷寺丘内遺跡群発掘調査報告書』『三重県埋蔵文化財調査報告259』三重県埋蔵文化財センター
三重県	三郷町	中ノ庄遺跡	三角州	3000	弥生時代前期	方形柱建物1棟（SK13）	2以上		小玉道明他1966『大谷遺跡発掘調査報告書―A地区・B地区―』『四日市市埋蔵文化財調査報告2』四日市市教育委員会、四日市遺跡を守る会、小玉道明1976『大谷遺跡発掘調査報告―C地区の遺構―』、『四日市市埋蔵文化財調査報告1』四日市市教育委員会、伊藤孝史1977『大谷遺跡発掘調査報告―C地区の遺構―』、『四日市市埋蔵文化財調査報告14』四日市市教育委員会
三重県	一宮市	永井遺跡	台地上	約2800	弥生時代前期	0棟	1～5基	0	小玉道明他1973『永井遺跡発掘調査報告』四日市市教育委員会
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	12100	弥生時代前期～	竪穴住居5棟以上、方形周溝溝3～4棟、水田遺構	53以上	4以上	田中伸明・見沼剛編『三ツ井遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	山中遺跡	沖積微高地	4800（4次と5次併せて）	弥生時代前期1	0棟	2	1	阪部信博編1992『山中遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第40集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	山中遺跡	沖積微高地	4800（4次と5次併せて）	弥生時代前期2	竪穴住居19棟、方形周溝溝9基（住居と竪穴周溝溝で分布する）	10	5	阪部信博編1992『山中遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第40集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	三郷町	仲町内遺跡	丘後の裾部	400	弥生時代前期後半	0棟	1	0	『昭和48年度埋蔵文化財調査報告』『昭和48年度埋蔵文化財調査報告書第40集』三重県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	村ノコノ遺跡 第3次	沖積微高地	1500	弥生時代前期後半	0棟	23	1	三郷町埋蔵文化財センター2005『村ノコノ遺跡・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	明神寺遺跡	沖積微高地	約15000	弥生時代中期前葉	竪穴住居36棟、掘立柱建物1棟、溝7条	96	7	三郷町埋蔵文化財センター2005『村ノコノ遺跡（第3次）発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代中期前葉	区画溝あるか	3	不明	橋上昇編2001『八王子遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	津市	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	弥生時代中期前葉	竪穴住居44棟(区画溝)+44棟(区画溝)+15棟(東部)+5棟(北部)、掘立柱建物47棟(東部)2棟(東部)	1(西部)16(東部)0(北部)0(東部)	0(北部)0(東部)0(北部)	石立久嗣1991『朝日遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター

県名	市町村名	地名	立地	調査面積 (1)	時期	堅穴式居等	大型土坑	中大型土坑	文献
三重県	安曇町	日田遺跡	西友郡 丘上段		弥生時代中期前半	堅穴式居3棟	3		伊勢美星、竹内英樹1987「平田跡群」安曇郡遺跡調査会
三重県	津市	東田遺跡	沖積地	15710	弥生時代中期前半	堅穴式建物4棟、柱列4方形、溝1基	11	不明	大型土坑は土壌層の可能性あり。掘立柱建物と重複するもの2棟。他は建物間5～20mの範囲にある。
愛知県	名古屋	名古屋三の丸遺跡	洪積台地	9000	弥生時代中期前半	堅穴式居7棟	1	以上	【本特発掘】1980「名古屋三の丸遺跡(Ⅰ)」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15巻、財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	伊勢市	中ノ堀外遺跡	河原段丘低辺部	約7000	弥生時代中期前半	河原段丘式居2棟	0	0	高見直雄・岩手瑞「伊勢市佐八町中ノ堀外遺跡」三重県教育委員会
愛知県	一宮市	瀬島遺跡	期見地末端、沖積低地	約32000	弥生時代中期前半～中期中葉	堅穴式居30棟、掘立柱建物2棟、方37以上方形溝溝15基、溝5基、溝列8	37以上	—	大型土坑は土壌層と報告されるものを含む。堅穴式居との重複では方形形溝溝の間に付随している。
愛知県	名古屋	名古屋公園遺跡	沖積低地	14200(97区1200)	弥生時代中期前半～中期中葉	堅穴式居2棟、掘立柱建物3棟、方形17周溝溝6基	17	8	大型土坑の内1基はS204・05の内部主本。大型土坑は堅穴式居の周辺と方形形溝溝と重複している。
愛知県	名古屋	名古屋公園遺跡	沖積低地	14200(98区900)	弥生時代中期前半～中期中葉	堅穴式居2棟、掘立柱建物4棟、方形17周溝溝12基、溝22条	17	31	堅穴式居と方形形溝溝と重複。
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積低地	23740	弥生時代中期前半～中期中葉	堅穴式居1棟、溝3基	1	不明	【地上昇検】2001「八王子遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第32巻、財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	鈴鹿市	堀之内遺跡	洪積台地	16125	弥生時代中期前半～中期中葉	堅穴式居5棟、土器棺墓1基、方形溝溝1基	1	0	3855と3855は土坑に時代不明である土坑が重複する。
愛知県	基山町	阿弥谷遺跡	沖積低地	約15000	弥生時代中期前半	堅穴式居43棟、溝1条	72	17	【地上昇検】1990「阿弥谷遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11巻、財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	王子遺跡	沖積低地	23740	弥生時代中期前半	堅穴式居2棟	12	48	土坑は前期後を含む可能性あり
愛知県	瑞穂市	北山遺跡	沖積低地	1274	弥生時代中期前半	0棟、方形形溝溝7基	6以上	0	北條孝次2000「王子・北山遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2巻、財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	津市	朝日遺跡	沖積低地	約50000	弥生時代中期前半	堅穴式居18棟(南側)	5(西側)106(南側)2(東側)8(北側)	1(西側)38(南側)0(東側)0(北側)	【地上昇検】1991「朝日遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30巻、財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	白山市	和連野遺跡	河原段丘低辺部	288	弥生時代中期前半	堅穴式居3棟	20	1以上	大型土坑は溝SD13・18を含む。堅穴式居と重複しない。周辺に分布。
三重県	伊賀市	吉里遺跡B地区	洪積台地	約3000	弥生時代中期前半	堅穴式居2棟(円形と方形)	8以上	0	【地上昇検】1973「吉里遺跡発掘調査報告」B地区、「三重県埋蔵文化財調査報告」17、三重県教育委員会
愛知県	基山町	常楽遺跡	沖積低地	1950(E-H区のみ)	弥生時代中期前半	E区 堅穴式居5棟(中葉)	3(E区)	0	【地上昇検】1990「常楽遺跡発掘調査報告」基山町文化財調査報告、愛知県埋蔵文化財調査委員会
愛知県	津市	朝日遺跡	沖積低地	約50000	弥生時代中期前半	堅穴式居41棟(南側)+1棟(北側)	14(西側)34(南側)0(東側)2(北側)	3(西側)32(南側)0(東側)2(北側)	【地上昇検】1991「朝日遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30巻、財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
岐阜県	美濃市	赤野小山遺跡	河原段丘	1500	弥生時代中期前半	堅穴式居12棟	4	不明	【地上昇検】1973「赤野小山遺跡」岐阜県教育委員会・美濃市文化財調査委員会
三重県	松阪市	上寺遺跡	河原段丘	約5500	弥生時代中期前半	堅穴式居1棟	1	0	【地上昇検】1981「上寺遺跡発掘調査報告」松阪市文化財調査委員会
三重県	明和町	金剛坂遺跡	河原段丘低辺部	約900	弥生時代中期前半	方形形溝溝2基	1	0	【地上昇検】1971「金剛坂遺跡発掘調査報告」明和町教育委員会
三重県	鈴鹿市	堀之内遺跡	洪積台地	約2680	弥生時代中期前半	堅穴式居1棟	0	0	【地上昇検】1970「堀之内PA遺跡」『堀之内PA遺跡発掘調査報告』日本道路公団名古屋支社・三重県教育委員会
三重県	名張市	堀之内遺跡	堀之内地区6区(扇状地)	200	弥生時代中期前半	堅穴式居1棟	1	0	田尻仁「名張市赤目町堀之内・柏原遺跡」三重県教育委員会
愛知県	津市	朝日遺跡	沖積低地	約50000	弥生時代中期後半	堅穴式居20棟(南側)+6棟(北側)	1(西側)98(南側)0(東側)4(北側)	0(西側)26(南側)0(東側)2(北側)	【地上昇検】1991「朝日遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30巻、財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	玉城町	上段丘遺跡	上段丘段丘頂部	920	弥生時代中期後半	堅穴式居4棟(円形2、方形2)	4	2	【地上昇検】1985「上段丘遺跡発掘調査報告」玉城町教育委員会
愛知県	豊田市	川原遺跡	沖積低地	12500	弥生時代中期後半～中期後葉	方形形溝溝12基、土器棺1基、土溝14以上溝35基	14以上	0	【地上昇検】1987「川原遺跡」豊田市文化財調査委員会
愛知県	名古屋	名古屋公園遺跡	沖積低地	14200(98区1000)	弥生時代中期後半～中期後葉	掘立柱建物13基	7	4	大型土坑は方形形溝溝の間に分布する。ほとんどの土坑は方形形溝溝の間に分布する。ほとんどの土坑は方形形溝溝の間に分布する。
愛知県	津市	西上免遺跡	沖積低地	10568	弥生時代中期後半～中期後葉	0棟	13	5	大型土坑は土壌層と報告されるものを含む。
三重県	鈴鹿市	北遺跡	低段丘段丘低辺部	4500	弥生時代中期後半～中期後葉	堅穴式居11棟、掘立柱建物1棟			【地上昇検】1983「鈴鹿市安曇町可入遺跡」昭和57年度産業遺産調査事業地質調査文化財調査報告書第73巻、財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	名張市	新所沢遺跡	丘陵	約2000	弥生時代中期後半～中期後葉	堅穴式居4棟	4		大型土坑は土壌層と報告されるものを含む。堅穴式居との重複では方形形溝溝の間に付随している。堅穴式居と重複しない。隣接して分布する。
三重県	津市	亀井遺跡	河原自然防風溝	試掘グリッドNo.15	弥生時代中期後半	0棟	2		【地上昇検】1973「津市河原町・亀井遺跡」昭和47年度産業遺産調査事業地質調査文化財調査報告書第41、三重県教育委員会
愛知県	基山町	大洲遺跡	沖積低地	約10000	弥生時代中期後半	堅穴式居52棟、方形形溝溝SX01、井戸3基	49	0	大型土坑は堅穴式居の周辺に多い。重複もあり(17基)。南側方形形溝溝SX01とは重複しない。
愛知県	春日井市	柳川遺跡	上段丘地区		弥生時代中期後半	方形形溝溝22基	2		大型土坑は方形形溝溝とは重複していない。
愛知県	春日井市	柳川遺跡	南山地区		弥生時代中期後半	なし	1		大型土坑はSK5504
愛知県	春日井市	柳川遺跡	南山地区		弥生時代中期後半				【地上昇検】1984「柳川」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第1巻』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター、松原勝治編1988「柳川遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第3巻』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター、松原勝治編1992「柳川遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第19巻』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター、堀上昇編1992「柳川遺跡Ⅳ」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第29巻』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積 (1)	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	春日井市	瀬川遺跡 苗田地区			弥生時代中期後半	竪穴住居29棟	20	3	大型土坑の内3基建物を重複する。他は建物の周辺10m内、溝と重複するもの1基。水堀型の貯蔵用とされるものあり。	埋蔵文化財センター調査報告書第19集「財団法人 愛知埋蔵文化財センター、村上昇編1992「瀬川遺跡Ⅳ」、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第29集』財団法人 愛知埋蔵文化財センター
三重県	名張市	下川原遺跡	沖積地、旧町道目 熱帯防炎の敷設地	7700	弥生時代中期後半	竪穴住居4棟以上（方形、新しい傾10度）	19	1	大型土坑の内2基は住居土坑、竪穴住居内のもの（10m位）は含まず。大型土坑と竪穴住居（SB11のみ）の切り合いは3カ所。1基は住居状のもの、1基は方形形遺構の残骸のもの、他に重複はない。住居の周辺10m位に存在する状況を示す。	門田了三1986「下川原遺跡、名張市遺跡調査会
三重県	土佐町	上の山遺跡	佐伯石段上	約2400	弥生時代中期後半	方形形遺構2基、溝1条	0		上村安生1982「上の山遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告103』三重県埋蔵文化財センター	
愛知県	豊橋市	橋渡遺跡 1次・2次	河津段丘低位面	11020	弥生時代中期後半	竪穴住居21棟、方形形遺構2基	4	0	大型土坑のSK01は竪穴住居の入口状のもの、SK02とSK03は竪穴住居と重複している。その他は住居に隣接する。居住域内の土坑とSK02は時多量出土。全体に深さ30cm内外で示す。	小林久彦・水野孝彦1994「橋渡遺跡、『豊橋市埋蔵文化財調査報告第18集』豊橋市教育委員会
愛知県	豊田市	常盤遺跡(第4次)	洪橋台地	3240	弥生時代中期後半	竪穴住居1棟	0	0	久本孝典・斎藤直彦他1969「高橋遺跡、豊田市教育委員会	
愛知県	名古屋市中区	高瀬遺跡(第34次・第39次)	赤橋台地	3700	弥生時代中期後半	竪穴住居2棟	0	0	村大誠編2003「埋蔵文化財調査報告書46高瀬遺跡(第34次・第39次)、『名古屋文化財調査報告60』名古屋市教育委員会	
愛知県	知立市	天神遺跡A地区	洪橋台地	530	弥生時代中期後半	竪穴住居5棟（SK01は含まず）	0	0	岡本政史編1986「知立市西中瀬跡発掘調査報告書 天神遺跡（A・B）」知立市教育委員会	
愛知県	知立市	天神遺跡B地区	洪橋台地	1520	弥生時代中期後半	竪穴住居2棟、竪穴住居1棟	0	1	岡本政史他1987「知立市西中瀬跡発掘調査報告書 天神遺跡（A・B）」知立市教育委員会	
愛知県	知立市	常盤切通跡A区	洪橋台地	600	弥生時代中期後半	竪穴住居3棟、竪穴住居2棟	0	0	岡本政史他1988「知立市西中瀬跡発掘調査報告書 常盤切通跡A区」知立市教育委員会	
愛知県	春日井市	阿部谷等遺跡	沖積微高地	約15000	弥生時代中期後半	竪穴住居5棟、方形形遺構3基	81	8	石屋山編1990「阿部谷等遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人 愛知埋蔵文化財センター	
愛知県	稲沢市	一色海岸遺跡	沖積微高地	約20600	弥生時代中期後半	竪穴住居94棟、竪穴住居6棟、方形形遺構2基、溝1基、溝32条、田間道9条	30	7	大型土坑は井戸1基含む。10期の遺構交互のp22時期に竪穴住居との重複が多い。	稲山隆一・鬼頭剛・堀本真子1998「一色海岸遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第9集』財団法人 愛知埋蔵文化財センター
愛知県	豊橋市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代中期後半	竪穴住居6棟、方形形遺構9基	7	不明	大塚土坑のp2基は方形形遺構の主体部	村上昇編2001「八王子遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	大瀬遺跡	沖積微高地	410	弥生時代中期後半	0棟	25	20	北條敬司2004「大瀬遺跡発掘調査報告書、稲沢市都市開発部、稲沢市内遺跡発掘調査委員会	
愛知県	豊田市	川瀬遺跡	沖積微高地	12600	弥生時代中期後半	竪穴住居294棟、方形形遺構2基、土器貯蔵所	10		大塚土坑のp2基が竪穴住居と重複しているが、居住域の中央部にはない。竪穴が多い。	稲田信博・赤野道彦・鬼頭剛・堀本真子編2001「川瀬遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第9集』財団法人 愛知埋蔵文化財センター
愛知県	清洲市	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	弥生時代中期後半	竪穴住居72棟(南側)+1棟(東部)、竪穴住居1棟(北側)	176(南側) 4(東部) 2(北側)	56(南側) 50(東部) 50(北側)	根拠不明が5が、88(南側)+1(北側)。	石屋山編1991「朝日遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知埋蔵文化財センター
岐阜県	岐阜市	寺田遺跡	佐伯段丘微高地	約5500	弥生時代中期後半	竪穴住居21棟	6以上	以上	土坑は全部で20基。竪穴住居と分布が重複する。	吉田英敏他1987「寺田・日野」岐阜市教育委員会
三重県	四日市市	上野遺跡	河津段丘	3496	弥生時代中期後半	竪穴住居24棟	0	2	大塚土坑のp2基は住居内の「貯蔵穴」。1基は土器貯蔵所。	春日井他1991「上野遺跡、『四日市市遺跡調査文化財調査報告書Ⅳ』四日市市遺跡調査会
三重県	四日市市	上野遺跡2	河津段丘	1982	弥生時代中期後半	竪穴住居3棟、竪穴住居2棟、方形形遺構1基	0	3	中塚土坑のp2基は住居内の「貯蔵穴」。1基は土器貯蔵所。	春日井他1992「上野遺跡2、『四日市市遺跡調査文化財調査報告書ⅣX』四日市市遺跡調査会
三重県	白山市	大角遺跡	丘陵	200	弥生時代中期後半	竪穴住居2棟	0	1	本堂弘之1985「大角遺跡発掘調査報告、『白山市埋蔵文化財調査報告Ⅱ』白山市教育委員会	
三重県	四日市市	菊上遺跡	丘陵	36718	弥生時代中期後半	竪穴住居126棟、竪穴住居33棟、方形形遺構3基	78	64	竪穴住居のp1基は最大5m。大型土坑はST802の上層部、地中に集中する。ST802基底部の幅20m程。竪穴住居、竪穴住居の周辺10m内にほとんど入る。建物と重複している大型土坑は5基、隣接するもの8基（1m内外）、基本的には重複しない。中型土坑は住居内には数少ない。	本堂弘之1985「大角遺跡発掘調査報告、『白山市埋蔵文化財調査報告Ⅱ』白山市教育委員会
三重県	津市	長瀬遺跡	丘陵上	3700	弥生時代中期後半	竪穴住居57棟、竪穴住居10棟、住居176棟	1		大型土坑は竪穴住居柱穴を含まない。土坑は柱穴を含めて多。ほとんど重複していない。住居に隣接する。	池田清行2000「長瀬遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告227-6』三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	山田遺跡	丘陵上	1100	弥生時代中期後半	竪穴住居15棟	4		中村光司・橋本隆昌他1995「大古遺跡、山田遺跡、野ノ瀬遺跡発掘調査報告115-4』三重県埋蔵文化財調査報告Ⅱ	
三重県	津市	長瀬遺跡 1次（津市）	丘陵上	約750	弥生時代中期後半	竪穴住居13棟	0		菅原重光1969「長瀬遺跡発掘調査報告、津市教育委員会	
三重県	玉城町	仲内遺跡	丘陵の裾部	400	弥生時代中期後半	竪穴住居1棟	0	0	三重県教育委員会1979「復元宮遺跡発掘調査報告書Ⅱ、四日市市教育委員会	
三重県	四日市市	永井遺跡	台地上	約2800	弥生時代中期後半	0棟（いくつかりそう）、方形形遺構2基（北側）	13以上	0	大塚土坑は方形形遺構の南側に隣接する。方形形遺構に隣接するものもある。	小玉遺跡他1973「永井遺跡発掘調査報告、四日市市教育委員会
三重県	桑名市	辻戸平遺跡B地区	沖積微高地	600	弥生時代中期後半	竪穴住居1棟	不明	0基	やや離れているC地区には弥生時代中層土あり。	中村信裕「名桑市赤目跡辻戸遺跡・上野野遺跡、谷本政次1972「中々庄遺跡発掘調査報告10』三重県教育委員会
三重県	三好町	中々庄遺跡	三角州	3000	弥生時代中期	土坑とされているものを含めて方形形遺構が存在	2以上		大塚土坑は土器溝として報告されている。土坑は大小2000程度。	伊藤久嗣・吉水雄夫1980「神所遺跡-遺構と遺物-」三重県教育委員会
三重県	津市	神所遺跡	沖積微高地	12600	弥生時代中期	竪穴住居15棟以上、方形形遺構5基	14		大塚土坑は方形形遺構のSDか。大型土坑のp5基は方形形遺構のSDとした。大型土坑と竪穴住居と重複はしない。周辺に隣接。むしろ方形形遺構と分布上重複する。	河野信幸1985「片野遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告69』三重県教育委員会
三重県	一志町	片野遺跡	河津段丘中位面	4430	弥生時代中期（中期中層が主体）	竪穴住居6棟（中層新設）、方形形遺構3基	16	3	竪穴住居のp11棟は方形形遺構のSDか。大型土坑のp5基は方形形遺構のSDとした。大型土坑と竪穴住居と重複はしない。周辺に隣接。むしろ方形形遺構と分布上重複する。	河野信幸1985「片野遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告69』三重県教育委員会
愛知県	春日井市	新瀬遺跡	沖積微高地	1950（E-H区のみ）	弥生時代中期後半 弥生時代後期	G区 竪穴住居7棟	4（G区） 2（F区）		大型土坑はG区4中期後半1基、後期3基、E区が中期後半2基。G区で中期後半の開口1基。G区は住居と重複していない。	長嶋広・安藤義弘、加藤安信1990「新瀬遺跡発掘調査報告、『春日井市埋蔵文化財調査報告Ⅱ』愛知埋蔵文化財センター

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積 (㎡)	時期	形状・柱等	大型土坑	中型土坑	文献	備考
愛知県	名古屋市中区	名古屋城三の丸遺跡	赤橋台地	9,000	弥生時代後期	方形周溝1基	58		『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	
	愛知県	高遠遺跡(第1次～第3次)	赤橋台地		弥生時代後期	竪穴住居4棟	0		『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	
愛知県	豊田市	高遠遺跡(第2次)	赤橋台地	3,240	弥生時代後期	竪穴住居10棟(特殊遺構第2号を含む)	0		『高橋遺跡』豊田市教育委員会	
	愛知県	豊田市	赤橋台地	560	弥生時代後期	竪穴住居4棟	0		『高橋遺跡第六次調査報告書』『豊田市埋蔵土質調査報告11』豊田市教育委員会	
愛知県	豊田市	高遠遺跡(第2次)	赤橋台地	1,800	弥生時代後期	竪穴住居6棟以上	0		『高橋遺跡第七次発掘調査報告』『豊田市埋蔵土質調査報告12』豊田市教育委員会・豊田市歴史研究会	
	愛知県	豊田市	赤橋台地	1,390	弥生時代後期	竪穴住居8棟以上	0		『高橋遺跡第八次発掘調査報告』『豊田市埋蔵土質調査報告15』豊田市教育委員会	
愛知県	名古屋市中区	高遠遺跡(第4次・第5次)	赤橋台地	3,700	弥生時代後期	竪穴住居4棟	3	1	『名古屋埋蔵文化財センター調査報告第24次・第39次』『名古屋埋蔵文化財センター調査報告60』名古屋埋蔵文化財センター	
	愛知県	稲沢市	中瀬原高台地	7,100	弥生時代後期	竪穴住居9棟	2	1	『名古屋埋蔵文化財センター調査報告第52集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	
愛知県	稲沢市	三ツ井遺跡	中瀬原高台地	12,100	弥生時代後期	竪穴住居2棟	0	1	『田中伸明・見沼剛『三ツ井遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告第87集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	
	愛知県	春日町	中瀬原高台地	約15,000	弥生時代後期	竪穴住居1棟、溝7条	12	4	『石黒立人編1990『阿部町三ツ井遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告第87集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	
愛知県	津島市	朝日遺跡	中瀬原高台地	約50,000	弥生時代後期	竪穴住居22棟(南側)	1(南側) 50(南側)	1(南側) 0(南側)	『石黒立人編1991『朝日遺跡』』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告第30集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	
	愛知県	津島市	中瀬原高台地		弥生時代後期	竪穴住居5棟	0	0	『石黒立人編1991『朝日遺跡』』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告第30集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	
三重県	松阪市	上寺遺跡	河津段丘	約5,500	弥生時代後期	竪穴住居1棟(他1棟)	0	0	『下村登良・野田浩一編1981『上寺遺跡発掘調査報告書』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会	
	三重県	津島市	河津段丘縁辺	約900	弥生時代後期	方形周溝2基	0	0	『山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会	
三重県	松阪市	小糸赤坂遺跡(第8次)	丘上	2,560	弥生時代後期	竪穴住居9棟、竪立住居1棟	20	10	『伊藤浩一・山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会	
	三重県	松阪市	小糸赤坂遺跡(第6次・7次)	3,100	弥生時代後期	竪穴住居9棟、竪立住居2棟、方坑2棟、溝1基	24以上	4以上	『伊藤浩一・山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会	
三重県	津市	野田遺跡(第4次)掘B遺跡	丘上	約1,000	弥生時代後期	竪穴住居5棟	0	0	『津市埋蔵文化財調査報告8』津市教育委員会	
	三重県	津市	野田遺跡(第4次)掘B遺跡	約800	弥生時代後期	竪穴住居3棟	1	0	『津市埋蔵文化財調査報告8』津市教育委員会	
三重県	津市	月よへ遺跡	丘上の裾部	384	弥生時代後期	方形周溝3基	0	0	『三重県埋蔵文化財調査報告11』四日市市教育委員会	
	三重県	津市	大谷遺跡	約2,700	弥生時代後期	竪穴住居11棟	1	1	『三重県埋蔵文化財調査報告11』四日市市教育委員会	
三重県	津市	西ヶ丘遺跡	赤橋台地上	約4,000	弥生時代後期	大甕土坑は竪穴住居状のものSK107。大甕方形、一辺25.5m。柱穴、竪穴、平庭。深さ1.5cm。中甕土坑は、弥生土層上。古墳時代後期は竪穴住居10棟。土坑15ヶ所(全て大甕のもの)。	1	3	『西ヶ丘遺跡』三重県埋蔵文化財調査報告11。四日市市教育委員会	
三重県	津市	永年遺跡	台地上	約2,800	弥生時代後期	竪穴住居19棟	0	0	『小玉道明1973『永年遺跡発掘調査報告』』四日市市教育委員会	
	三重県	伊勢市	三山遺跡	赤橋台地	2,500	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居10棟	0	『伊勢市埋蔵文化財調査報告5』伊勢市教育委員会	
三重県	伊勢市	御田遺跡	上位段丘	2,500	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居22棟以上	0	0	『伊勢市埋蔵文化財調査報告5』伊勢市教育委員会	
	三重県	伊勢市	御田遺跡	1,200	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居17棟(普通8棟、大山9棟)	2	0	『伊勢市埋蔵文化財調査報告5』伊勢市教育委員会	
三重県	津市	高遠遺跡(第5次)	赤橋台地	1,982	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居25棟、方形周溝3基(弥生時代中期後半)、他にSD03	1以上	1以上	『谷口良光1979『高遠遺跡第九次発掘調査報告』』『豊田市埋蔵土質調査報告17』豊田市教育委員会	
	三重県	津市	御田遺跡	中瀬原高台地	1,982	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居25棟、方形周溝3基(弥生時代中期後半)、他にSD03	1以上	1以上	『谷口良光1979『高遠遺跡第九次発掘調査報告』』『豊田市埋蔵土質調査報告17』豊田市教育委員会
三重県	津市	見沼台遺跡	赤橋台地	2,200	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居6棟	0	0	『伊藤浩一・山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会	
	三重県	津市	見沼台遺跡	赤橋台地	2,3740	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居28棟、竪立住居1棟、(後)竪穴住居7棟	58	0	『伊藤浩一・山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会
三重県	津市	八王子遺跡	中瀬原高台地	2,2808	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居7棟、水田21棟15棟	8	0	『伊藤浩一・山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会	
	三重県	津市	八王子遺跡	中瀬原高台地	1,4926	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居7棟、水田21棟15棟	8	0	『伊藤浩一・山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会
三重県	津市	堀田遺跡	中瀬原高台地	1,4926	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居7棟、水田21棟15棟	8	0	『伊藤浩一・山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会	
	三重県	津市	堀田遺跡	中瀬原高台地	1,4926	弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期前半	竪穴住居7棟、水田21棟15棟	8	0	『伊藤浩一・山沢義典・谷本政次1971『発掘調査報告書第87集』』『松阪市文化財調査報告52-2』松阪市教育委員会

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積 (1)	時期	遺構・出土品等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	一宮市	山中遺跡	沖積扇高地	4800(4次と5次併せて)	弥生時代後期～縄文式	方形周溝溝10基	16	2	大型土坑(SZ10・SZ11とSZ13の内主体として検出されている。他にSZ10C・南内形の土坑5～6基、中型土坑はSZ10のマウンドから。	石黒立人編1993「山中遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第45集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	村付ノコ遺跡 第3次	沖積扇高地	11500	弥生時代後期～縄文式	竪穴住居11棟(方形)	1		大型土坑は井戸。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	村付ノコ遺跡 第2次	沖積扇高地		弥生時代後期～縄文式	竪穴住居3棟	4		大型土坑は新しい時代のものもあるか。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	柳川遺跡 上屋敷地区			弥生時代後期末～古墳時代前期	2方形周溝溝22基	0	0	非弥生次級編1984「柳川」『愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財調査報告書第1集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター、松岡隆治編1989「柳川遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第3集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター、松岡隆治編1992「柳川遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第19集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター、柳上昇編1992「柳川遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第29集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	柳川遺跡 南東山地区			弥生時代後期末～古墳時代前期	竪穴住居8棟	5以上		大型土坑は掘削不明	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	三王山遺跡	丘陵上	4900	弥生時代後期末～古墳時代前期初頭	竪穴住居7棟、方形周溝溝	2	5	村次級編1999「三王山遺跡」～5次。『名古屋埋蔵文化財調査報告書40』名古屋埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	伊勢市	野間内遺跡	河岸段丘縁辺	11000	弥生時代後期末～古墳時代前期初頭	竪穴住居21棟、土器棺1基、方形周溝溝4基	20	0	本型土坑の中央部は井戸(竪穴住居と分れる見地あり)。土器棺は竪穴住居SZ20に埋納し、14基は竪穴住居と分ち、埋納・重畳する。土器埋納4基は含まず。あまり重要しない。	三重県教育委員会1974「伊勢市上野間野間内遺跡」、『昭和48年度県営埋蔵文化財調査報告書』
愛知県	津洲町	洲崎遺跡	沖積扇高地	11591	弥生時代後期末～古墳時代前期前半	竪穴住居75棟、竪穴墓5基	21	3	本型土坑は井戸(竪穴住居と分れる見地あり)。土器棺は竪穴住居SZ20に埋納し、14基は竪穴住居と分ち、埋納・重畳する。土器埋納4基は含まず。あまり重要しない。	三重県教育委員会1990「洲崎遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
岐阜県	関市	砂丘遺跡	丘陵斜面	11250	弥生時代後期末～古墳時代前期前半	竪穴住居53棟、掘立柱建物1棟	0? 不明	0? 不明	成正勝編2000「砂丘遺跡」、『岐阜県埋蔵文化財センター調査報告書第65集』財団法人 岐阜県埋蔵文化財保護センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	名張市	城瀬遺跡	河岸段丘	2000	弥生時代後期末～古墳時代前期前半	竪穴住居8棟	0	0	門田了1985「城瀬遺跡」名張市教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積扇高地	112100	古墳時代前期後半	大型土坑は井戸で、溝とセットになる。	1		田中伸明・見崎編「三ツ井遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	豊田市	南山成遺跡	赤松台地	7220	古墳時代前期初頭	竪穴住居19棟、掘立柱建物2棟、方形周溝溝1基	3	1	大型土坑は性格不明遺構含む。SK17が1基のみ遺構する。他は竪穴住居の周辺50m内外に分布する。中型土坑は性格不明遺構。	天野博之編1999「南山成遺跡」、『豊田市埋蔵文化財調査報告書第10集』
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第1次～第3次)	赤松台地		古墳時代前期初頭	竪穴住居28棟	1		大型土坑は住居との重複はない。中型土坑で竪穴住居の跡・窟穴がある。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第2次)	赤松台地	3240	古墳時代前期初頭	竪穴住居13棟	0		中型土坑で竪穴住居の跡・窟穴がある。	久米孝男・斎藤隆雄他1969「高橋遺跡」、『豊田市教育委員会』
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第3次)	赤松台地	1660	古墳時代前期初頭	竪穴住居5棟	0		豊田市埋蔵文化財センター編1976「高橋遺跡第7次調査報告」、『豊田市埋蔵文化財調査報告11』豊田市教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第7次)	赤松台地	1800	古墳時代前期初頭	竪穴住居6棟以上	0		松井孝宗1977「高橋遺跡第7次発掘調査報告」、『豊田市埋蔵文化財調査報告12』豊田市教育委員会、豊田市郷土史研究会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市中区	高橋遺跡(第4次・第5次)	赤松台地	11390	古墳時代前期初頭	竪穴住居4棟以上	1		松井孝宗1978「高橋遺跡第8次発掘調査報告」、『豊田市埋蔵文化財調査報告15』豊田市教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第4次・第5次)	赤松台地	3700	古墳時代前期初頭	竪穴住居4棟	0	0	村次級編2003「埋蔵文化財調査報告書46高橋遺跡(第4次・第5次)」、『名古屋埋蔵文化財調査報告60』名古屋埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	津洲町	土石遺跡	沖積扇高地	約8000	古墳時代前期初頭	竪穴住居13棟	42		非弥生次級編1987「土石遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積扇高地	23740	古墳時代前期初頭	竪穴住居59棟(掘立柱)+8棟(掘立柱・式)、掘立柱建物8棟、区画溝あり	72		豊上野間2001「八王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	玉城町	仲山内遺跡	丘陵の裾部	400	古墳時代前期初頭	竪穴住居11棟	0	0	三重県教育委員会1979「伊豆郡玉城町仲山内遺跡」、『昭和48年度県営埋蔵文化財調査報告』	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	津洲町	朝日遺跡	沖積扇高地	約50000	古墳時代前期初頭(VI～VII期)	竪穴住居6棟+9棟(古墳時代(前期)23(南部)9(東部)11(東部)0(北部)0(比部))	0(西部)23(南部)9(東部)11(東部)0(北部)0(比部)		規模不明土坑が、12(南部)+3(東部)。内、南部の5基は竪穴住居と重複する。中型土坑は26基+46基(弥生時代後期を含む)と重複しない。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	玉城町	柳川遺跡	赤松台地縁辺	5500	古墳時代前期初頭、縄文～II式	竪穴住居2棟	0	0	倉田隆雄・東浩成1988「柳川遺跡発掘調査報告」、『三重県埋蔵文化財調査報告82』三重県教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	中津遺跡	赤松台地	420	古墳時代前期初頭、縄文式	竪穴住居1棟	0	0	菅室康光1977「中津遺跡発掘調査報告」、『津市埋蔵文化財調査報告14』津市教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	伊勢市	中津山遺跡A地区	低位丘陵上	掘堀グランド	古墳時代前期初頭、縄文式	竪穴住居2棟	2		下村豊良男1973「伊勢市上野間・中津山」、『昭和47年度県営埋蔵文化財調査報告4』三重県教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	玉城町	赤里内遺跡	丘陵の裾部	750	古墳時代前期初頭主体	竪穴住居8棟、掘立柱建物1棟	0	0	三重県教育委員会1979「伊豆郡玉城町赤里内遺跡」、『昭和47年度県営埋蔵文化財調査報告4』三重県教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市中区	名古屋城三の丸遺跡I	赤松台地	9000	古墳時代前期初頭～前期前半	竪穴住居23棟、方形溝1条	58		梅本博志編1990「名古屋城三の丸遺跡(Ⅰ)」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	津洲町	堀之内花ノ木遺跡	沖積扇高地	7100	古墳時代前期前半	竪穴住居23棟、方形溝1条	1		堀之内花ノ木遺跡。『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第52集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	津洲町	西上免遺跡	沖積扇高地	110568	古墳時代前期前半	竪穴住居11棟、竪穴墓5基、溝5条、水田15筆	3		非弥生次級編1997「西上免遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	春日井市	上野遺跡	河岸段丘	3496	古墳時代前期前半、縄文bor後半	竪穴住居3棟	0	0	春日井編1991「上野遺跡」、『四日市市埋蔵文化財調査報告書W』四日市市埋蔵文化財センター	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	中津遺跡	赤松台地	420	古墳時代前期前半、縄文式	竪穴住居1棟	0	1	菅室康光1977「中津遺跡発掘調査報告」、『津市埋蔵文化財調査報告14』津市教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	新畑遺跡A地区	丘陵上	700	古墳時代前期前半、松戸山式	竪穴住居9棟(内1棟は方形周溝溝1棟)	5		吉村利男1973「新畑遺跡発掘調査報告」、『津市埋蔵文化財調査報告7』新畑遺跡発掘調査団	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター